

特別なニーズのある人々に対する図書館サービス分科会（LSN）の歴史的概観

ナンシー・パネラ（Nancy Panella）

出典：

The Library Services to People with Special Needs Section of IFLA: an historical overview. IFLA Journal. 2009, 35(3), p. 258-271.

http://www.ifla.org/files/hq/publications/ifla-journal/ifla-journal-35-3_2009.pdf

目次

序論

背景

小委員会の結成

初期

1940年から1959年まで

1960年から1969年まで

1970年から1979年まで

1980年から1989年まで

1990年から1999年まで

2000年から2009年まで

現在および将来

注釈と参考文献

ナンシー・パネラについて

序論

2008年末IFLAは、「図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス分科会（LSDP）」という名称を、「特別なニーズのある人々に対する図書館サービス分科会（LSN）」へ変更するという、LSDPによる提案を承認した。前回の名称変更と同様に、新名称が分科会の現在の活動をより反映しているだけでなく、その関心領域をめぐる専門用語に再び重大な変化が見られたこともあり、変更の必要性が感じられたからである。*

* 歴史的正確性を期するために、本概観では、分科会の発展に伴い、さまざまな時代に使用されていた、特別なニーズのある人々に関する専門用語をそのまま使用し、また再現している。

名称は新しくなったが、この分科会が 1931 年までさかのぼる IFLA 最古の分科会の 1 つであることに変わりはない。分科会は同年、病院図書館（患者図書館）小委員会（Sub-committee on Hospital Libraries）として創設され、その使命は、入院中の人々、つまり病院に閉じ込められているがために、通常の図書館資料を利用できない人々に対する、専門的な図書館サービスの促進であった。本と読書を治療を助ける手段として利用する読書療法は二の次だった。しかし小委員会はすぐに、入院の直接的な原因ではないことが多いさまざまな障害のために、感覚補助具・運動補助具などが使用できる特別な資料や特別なサービスを必要としている患者がいることに気づいた。このようなニーズはまた、さまざまな理由により外出ができない、地域の人々にも認められることが明らかになった。このニーズを憂慮し、多種多様な委員を抱えているがために問題解決に取り組みやすい立場にあった小委員会では、理由は何であれ従来の図書館や資料、サービスを利用できない人々を対象として含めるべく、長い時間をかけて焦点を拡大していった。

LSNは、その長く、実り多き歴史全体を通じて、その使命に驚くほど忠実であり続け、それゆえに今日も、地域において従来の図書館資料が利用できない人々のために支援活動を続けている。そのような人々の中には、入院中あるいは服役中の人々、介護施設にいる高齢者および障害者、家から外出できない人々、聴覚障害者、身体・認知・発達障害者などがいる。各分野で幅広い専門知識を持つ常任委員に、常に恵まれているおかげで、LSNはその活動の中でも特に、特別なニーズのある人々に対する図書館サービスのガイドラインの開発を続けている。これらのガイドラインは、これまで全部で 15 ヶ国語に翻訳され、世界各地で使用されている。本概観執筆時点で、それらはIFLA専門報告書（Professional Report）の 50%近くを占めている。（専門報告書シリーズの刊行が 1984 年に開始されたとき、分科会がその最初の 2 つの出版物を作成したことを考えれば、これは驚くべきことではない。¹⁾

背景

LSNの前身である病院図書館小委員会は、1931 年 8 月 29 日に設立された。²これはIFLA自体の設立からわずか 4 年後のことである。³病院図書館小委員会は、IFLAが結成した 7 番目の小委員会で、特別なユーザーグループに対する図書館サービスに、初めて焦点を絞ったものであった。⁴

小委員会は、国際的な病院図書館団体への期待が大いに膨らんだ時代に結成された。この時代、入院患者に対する図書館サービスへの関心の高まりが認められるようになっていたが、⁵この現象は一つには、第一次世界大戦中および大戦後、入院中の軍人に対し、本と

読書が好ましい影響を与えたことを受けて、ブームとなったのである。⁶偶然にも、1800年代後期に始まった多国的な取り組みの結果、時代はさらに図書館の組織的な国際協力の幕開けを告げ、その中心となったのがIFLAの設立だった。⁷

小委員会の結成は、当時、英国赤十字社・聖ヨハネ騎士団病院図書館（British Red Cross and Order of St. John Hospital Library）の運営責任者であったマージョリー・E・ロバーツ（Marjorie E. Roberts）によって提案された。⁸ロバーツは、政治的洞察力のあるエネルギー豊富な女性で、入院患者に図書館サービスを提供する必要性について、深い情熱を抱いていた。病院内での図書館活動には、特に読書が治療手段として利用される際には、独自の専門知識と技術が必要であると認識していたロバーツは、この分野における特別な研修の必要性も熱心に提唱した。そして最終的に、患者向けの図書館サービスは、国によって運営方法が大きく異なる場合が多いことを知り、さまざまな方法を研究し、アイデアを交換できる国際会議に価値を見出すに至った。

ロバーツの提案をさらに推し進めたのは、1930年にケンブリッジで開催された（英国）図書館協会（Library Association）会議であった。患者向けの図書館サービスに関する協会初の会議がそこで開かれたのである。⁹そしてロバーツを主任幹事とし¹⁰、デンマーク、イギリス（UK）およびアメリカ合衆国（US）における活動の説明がなされた。¹¹これに続く会議参加者による非公式会談では、ドイツおよびスウェーデンにおける患者図書館サービスの再検討が行われ、公式会議と合わせて、多国間協力がもたらす恩恵を、参加者は感じたようである。討議終了時には、国際同盟を結成する提案が出された。¹²ロバーツがのちに記したように、それは「国際的な情報収集と意見交換」のニーズを満たすものとなる。¹³

IFLA との連携を進めることを決めたのが、ロバーツなのか、あるいは参加者全体なのかは定かではないが、いずれにせよ、IFLA という組織が完璧な場であると思われたのは間違いない。IFLA は国際組織であり、それゆえ、既存の病院図書館サービスへのルートを広く提供し、またそのようなサービスがまったく存在しないところでは、サービスを促進することができた。また、国によっては患者に対する図書館サービスに地方自治体の図書館が責任を負っており、IFLA との連携は、そのような図書館と連絡を取り合う効果的な手段でもあった。そして最後に、IFLA には専門教育小委員会があり、おそらくロバーツにとってはこれが特に重要であった。

小委員会の結成

1931年8月、チェルトナムで開催されたIFLAの年次大会において、当時IFLAの運営組

織であった国際図書館委員会（International Library Committee）（ILC、のちのIFLA評議会¹⁴）が、ロバーツが提案した「病院図書館サービスに関する国際的な小委員会の必要性についての覚書」を検討した。提案では、小委員会について以下のように記していた。

- － 病院図書館サービスが存在するすべての国における、その実施方法に関する情報を収集する。
- － 病院図書館の原則…の知名度を高め、さらに広く定着させるために、望ましいと思われる広報活動を開始する。
- － 病院図書館の組織に関する勧告を、既存のプログラムの独自の研究に基づき作成する。

15

ロバーツの提案は承認されたが、提案自体のメリット以外にも、これに先立つ2つの出来事が承認に貢献したといえる。第一に、同年3月にILC委員のアンリ・ルメートル（Henri Lemaitre）に宛てて書かれた手紙の中で、ロバーツは入院患者に対する図書館サービスの重要性を詳細に語っていた。ルメートルがその後まもなくアルジェで開催される公共図書館会議に参加することを知っていたロバーツは、そこでこのテーマに関する議論を始めるよう彼を説得したいと願っていたのだ。¹⁶第二に、同じくILC委員で、IFLA公共図書館小委員会（Public Library Sub-committee）委員長、アメリカ図書館協会（ALA）書記（Secretary）であったカール・ミーラム（Carl Milam）が、入院患者に読み物を提供することのメリットを痛感するようになったからである。ミーラムはそれを、アメリカ合衆国における、入院中の軍人のためのALAの活動を通じて知った。¹⁷そして小委員会委員長として、彼はアメリカ国外での動きについても知る事ができた。¹⁸そのため、ロバーツの提案は、かなり有利な条件でIFLAに届けられたと思われる。2人のILC委員が、すでにこの分野における関心の高まりを認識していたからである。

ILCはアンリ・ルメートルを小委員会委員長に推薦した。¹⁹赤十字社連盟の技術カウンセラー、ルネ・サンド博士（Dr. Rene Sand）が医療/病院関係代表となり、ロバーツが書記となった。²⁰

初期

小委員会の最初の活動は、通信員（会員）に協力を求め、この分野に関する最新の情報をできるだけ多く収集することが中心であった。この両方を実施するために、病院図書館サービスに関するアンケートが作成され、27ヶ国の図書館、保健機関あるいは医療機関の代表に送付された。回答率は高く、東西ヨーロッパ、アジア、アフリカおよびオセアニアを代表する19ヶ国が回答し、18ヶ国から19名が通信員となることに同意してくれた。²¹

ルメートルは調査結果を1932年のIFLA年次大会（ベルン）で論じ、さまざまな医師が小委員会の活動に関心を示していることがわかったと、特に指摘した。²²その関心をさらに促したいと考えたルメートルは、国際連盟保健局と協力関係を築くことを提言し、この考えは当時IFLA会長であったウィリアム・W・ビショップ（William W. Bishop）によって承認された。ビショップはさらに、IFLA事務局長で国際連盟図書館司書のティエツェ・ピエトロ・セヴェンスマ博士（Dr. Tietse Pieter Sevensma）に、国際連盟の保健局長と「（そのような）協力の可能性」について検討するよう提案した。²³しかし、連携がもたらした具体的な利益については、その後の記録は明らかではない。

一方、ルメートルがかつて「疲れを知らない伝道者」と称した²⁴ロバーツは、国際病院協会（IHA）によって採択された、一連の病院図書館決議の監修を行っていた。その一部は、以下の通りである。

- － 患者のための図書館は、すべての病院に必要不可欠な要素である。
- － すべての病院は、中核的な患者図書館の維持に必要なスペースを提供しなければならない。
- － 図書は定期的に患者に配布されなければならない。
- － 各国は、国にもっとも都合のよい方法により、病院に図書を供給しなければならない。
- － 精神病院およびサナトリウム内の図書/図書館には、特別な注意を払わなければならない。

この決議はベルギーで開催されたIHA年次総会で採択され、1933年に小委員会が開かれた際に（シカゴ、アヴィニョン）ルメートルから報告があった。²⁵

その後まもなく、基礎が築かれたこの時代の重要な出来事が起こった。ロバーツがイギリスで病院図書館司書組合（Guild of Hospital Librarians）を結成したのである。²⁶組合の目的は、小委員会の目的と似ている部分もあったが²⁷、2つの組織の構成は大きく異なっていた。IFLA小委員会は、図書館司書、医療機関および病院当局などの臨床の専門家らによって構成されており、一方、組合には、患者図書館サービスに関わる活動をしている者であれば、資格を問わず、単に関心があるにすぎない者も含め、あらゆる人が参加していた。要するに同組合は、「専門家とボランティア、そしてこの極めて重要な活動に関心を持つ、その他のすべての人々の絆」を結んだのである。²⁸明確な目標を掲げた組合と小委員会は、ロバーツを非公式な連絡係とし、長年にわたり協力して活動を進めていった。

1930年代後半を通して、小委員会は患者図書館の活動に関する情報を、国際的に収集し続けた。²⁹そして、以後何度も繰り返されることになるが、この時初めて対象を広げることが検討され、ホスピスの高齢者と受刑者という、施設内から出ることができない他の2つのグループも含めることになった。³⁰特に受刑者についての検討がなされたのは、いくつかの国では、公共図書館で入院患者にサービスを提供している部門と同じ部門が、受刑者にもサービスを提供していたため、対象の拡大が適切であると思われたからである。しかし、2つのグループに対して行動を起こすことは、しばらくの間見送られた。

ロバーツ自身も積極的に活動を続けていた。彼女は、IHAによる別の病院図書館決議の採択について、再度報告した。³¹そして患者のための図書館サービスの価値に関し、口頭と文章による発表を継続した。また、小委員会と病院図書館司書組合の連絡係も続けた。(その国際性をより正確に反映するため、同組合は1936年に名称を変更した。それは、「国際病院図書館協会、国際病院図書館司書組合 (International Association of Hospital Libraries, International Guild of Hospital Librarians)」となり、IFLAに加盟した最初の国際組織といわれている。)^{32,33}

1940年から1959年まで

第二次世界大戦により、小委員会の活動は一時中断された。しかし1947年、ルメートルの死後就任した新リーダー、ポール・ポインドロン (Paul Poindron) 「一般報告官 (rapporteur général)」の旺盛な行動力のもと、再建が開始された。³⁴フランス国民教育省に所属する³⁵ポインドロンの当面の目標は、小委員会の再編成であった。具体的には、元会員との関係を再確立し、この分野で活動している非会員図書館司書と連絡を取ることである。この目的に向けて、彼は2回目の国際調査の陣頭指揮をとり、IFLAの1947年年次大会において小委員会が(オスロで)開催された際、調査結果に関する非常に長い報告書を発表した。³⁶

ポインドロンは報告書に引き続き、一部これに基づき、患者図書館に関する「勧告」を多数作成した。それは、このような図書館は、あらゆる病人看護施設において不可欠な要素とするべきであるという信念を軸としていた。広範囲にわたり、かつ詳細で、病院、ホスピス、伝染病患者保護収容施設、サナトリウムおよび回復施設への適用を意図したこれらの勧告は³⁷、この分野におけるもっとも初期の多国的勧告であった。

ロバーツ同様、ポインドロンも、治療手段としての読書療法の価値を深く信奉しており、この分野における彼の勧告の多くに支持を得ることに成功した。たとえば、彼の指導のもと、小委員会は次のような決議をした。

- ー あらゆる精神病院には、患者のための図書館を設けなければならない。
- ー アメリカ合衆国、イギリスおよびスカンジナビア諸国で、精神病院向けの図書館サービスに使用されている方法を、精神病院の医師および経営者に注目させなければならない。

この決議は、1955年ブリュッセルで開催された第3回国際図書館司書会議(International Congress of Librarians)で承認された。³⁸

さらにロバーツ同様、ポインドロンも、病院図書館に関する教育に関心を持っており、彼の在職中に、この分野における実践家養成のための数々の戦略が開発された。それには、研修、実習課目および会議に関する勧告が含まれていたが、いずれも地域レベルで実践する際に状況に応じて変更することができた。特にポインドロンは、医学部の教員や看護学生および社会福祉を学んでいる学生など、図書館司書以外の人々を会議に参加させることを提案し、このような人々も患者の福祉に関心が高いので重要であるとした。

活動をさらに効果的に宣伝するために、小委員会は1948年IFLAに対し、年次大会終了後、即座に会議報告書を配布する許可を得たいともちかけた。また、ユネスコ、世界保健機関(WHO)、国際赤十字社連盟、国際医学学会事務局および国際医師・病院職員連盟など、さらに幅広い読者へと報告書を配布することも求めた。その後のやり取りから、このような配布方法が数年間続けられたことがわかる。

最後に、患者図書館に関する豊富な情報が、これまでも、そして今後も引き続き、世界各地で生まれることを認識し、ポインドロンと小委員会はこの分野に関する文献目録が必要であるという点で同意を得た。³⁹これは最終的には「世界中の病人と障害者に対する図書館サービスに関する書籍と論文の、可能な限り総合的なリスト」⁴⁰を作成することを目的とした、数年がかりの大変なプロジェクトであった。

1952年、新たなIFLA規約が採択された。その中で、小委員会は委員会へと名称を変更し、その結果、「病院図書館小委員会」は「病院図書館委員会(Committee on Hospital libraries)」となった。新規約により、常任諮問委員会も組織された。⁴¹

名称変更後も委員会では、病院を本拠地とした図書館か、公共図書館の延長プログラムかを問わず、患者向けの図書館サービスの促進を継続した。病院当局を代表するグループと密接なつながりを維持するというロバーツの伝統を守りながら、委員会はIHAの後進である国際病院連盟(IHF)との関係を大幅に強化し、1953年の合同会議プログラムに協力して取り組んだ。⁴²

委員会はまた、入院中の障害のある読者に、可能な限り幅広い読み物と支援を提供する責任を強化した。このため委員会では以下を決議した。

ー さまざまな言語によるマイクロフィルム図書を、重度の障害のある読者のために作成しなければならない。これらのマイクロフィルムのサイズは 35mm を標準とするのが望ましい。

ー ユネスコ加盟国は、a)障害者用のマイクロフィルム図書複製の際の著作権と、b)障害のある患者専用プロジェクター用のマイクロフィルム図書を国家間で貸借する際の輸送費および関税について、政府から一般免除を受けなければならない。⁴³

1953 年、緊急の職務を果たさなければならなくなったポインドランが委員会を去ると、そのリーダーシップは、チューリッヒ州立病院図書館司書 (Zurich's Bibliothekarin am Kantonsspital)、イルムガード・シュミットーシャーレンデン (Irmgard Schmid-Schälden) へと受け継がれた。⁴⁴彼女が任命される直前に、委員会は設立後 3 回目となる国際調査を実施することを決定し、⁴⁵その後シュミットーシャーレンデンが、調査結果を『各国で利用されている病院図書館制度の研究 (A study of the systems of hospital libraries in use in different countries)』という題名の論文にまとめた。これは 1956 年の IFLA 年次大会 (ミュンヘン) で討議されたが、⁴⁶その後も 2 年間にわたり年次大会での討議は続けられ、⁴⁷ポインドランの勧告の一部と合わせて、委員会初の基準を開発するに至った。

最後に、1950 年代後半に委員会は病院図書館のための研修に関する勧告を再び提案したが、その目標は、この分野における国際的な画一化を促進することであった。⁴⁸

1960 年から 1969 年まで

1960 年代は、積極的な活動の時代であった。委員会は、最初の 2 つの基準を発表し、患者向け医療情報図書リストの作成を開始し、視覚障害者向け録音図書の貸借に関する決議を採択し、この分野に関する大量の過去の文献の目録作成に着手し、入院患者に適した外国語による図書のリストをまとめ、IFLA の別の分科会との合同会議を初めて開催し、会則を討議した後、変更し、定期的なニュースレターの発行を開始し、委員会年次大会の論文と報告書を会員に配布する制度を開始した。

最初の基準は 1960 年に、Memoire indicateur sur les bibliothèques d'hôpitaux⁴⁹として発行され、図書の収集、患者への図書の配布、職員の配置、設備、予算そして病院職員に対するサービスに関する勧告が盛り込まれた。2 つ目の、『IFLA 病院内図書館の基準 (IFLA

Standards for Libraries in Hospitals)』はその拡大版で、委員会が開発を検討していた病院図書館に関するマニュアルに代わる、一層実践的な内容が記されていた。^{50,51}これらはユネスコ公報 (Bulletin) の一部として発行された。⁵²

患者に医療情報を提供することを長く提唱してきた委員会は、次に加盟国の医師会に、患者が自分たちの健康についてさらに学ぶために役立つ人気図書のリストを求めた。⁵³視覚障害者に対する図書館サービスにも引き続き関心を示していた委員会では、視覚障害者向けの録音図書の貸借に関するプレトリア州立図書館 (State Library of Pretoria) からの連絡をきっかけに、そのような録音図書を製作している機関の世界的なリストの発行に向けて取り組むことも決定した。⁵⁴

1964年にIFLAは新規約⁵⁵を採択したが、その際に分科会 (Section) と小分科会 (Sub-section) が設けられ、病院図書館委員会は、公共図書館分科会 (Public Libraries Section) の中の病院図書館小分科会 (Hospital Libraries Sub-section) となった。その後まもなく、新名称の小分科会は、病院図書館の活動に積極的に参加していたイギリスの図書館司書、モナ・ゴーイング (Mona Going) に、長年検討していた国際図書目録の編纂を依頼した。⁵⁶ゴーイングはプロジェクトを引き受けることに同意したが、それは最終的には彼女の同僚、アイリーン・カミング (Eileen Cumming) によって完成されることとなった。

患者が必要としている外国語による図書の入手が難しいことは、小分科会も懸念していた。そのため1960年代半ばに、通信員に自国の文献の代表作品リストを提出することを求める決定を投票により下した。その目的は、病院図書館司書が、患者が必要としている外国語図書のコレクション構築に利用できる図書選択用資料を作成することであった。⁵⁷1969年に刊行された『リーディング・ラウンド・ザ・ワールド (Reading Round the World)』⁵⁸には22ヶ国の作品が掲載された。この資料は同年中に1000部販売された。

59

「病院図書館」という言葉は、時間とともに「患者図書館」と同じ意味を示すようになっていったため、小分科会では、内容を膨らませた新規約をまとめる前に、1966年に投票により、その名称を変更することを決定した。そして、それまでの「病院図書館小分科会 (Hospital Libraries Sub-section)」という名称に替えて、「病院内の図書館小分科会 (Libraries in Hospitals Sub-section)」という名称を選んだ。これは些細な変更ではあったが、「現在多くの国で提供されているサービスをより完全に」網羅し (つまり、患者向けではないサービスも含め) 示すこととなった。⁶⁰

新規約には以下の内容が記された。

- ー 本小分科会は、入院患者、病院職員および病院内外の障害（全盲、弱視、身体障害）のある読者に対する（一般的な性質の）図書館サービスに取り組む。
- ー 本小分科会は、一般図書館サービスを担当する図書館司書によって組織・運営される医学分野の蔵書を少数取りそろえた、教育関係ではない病院における医学図書館サービスに関与する場合がある。これは、組織的観点からの関与に限り、医学文献の特異的問題は含まない。
- ー 本小分科会は、公共図書館分科会の中の小分科会であるが、公共図書館を拠点とするサービスだけでなく、本小分科会が責任を負う分野の、あらゆるタイプのサービスに取り組まなければならない。⁶¹

1966年、情報の流れを改善し、小分科会会員間のコミュニケーションを促進するために、常任委員会は、もっとも古い会報の1つである、『ニュー・ブルテン (New Bulletin)』の発行を開始した。また、年次大会で読まれることになっている論文のコピーを、大会に先立ち小分科会会員に送付するプログラムも開始した。（これらの論文の多くは、その後『リブリ (Libri)』および『インターナショナル・ライブラリー・レビュー (International Library Review)』に発表された。）⁶² 会議に参加できなかった会員には、会議のフォローアップレポートが送付された。

最後に、1969年から1972年まで小分科会委員長を務めたM.ジョイ・ルイス (M. Joy Lewis) に、障害者向けの図書館の条件とサービスに関する彼女のエッセイを称え、セヴェンスマ・エッセイ賞 (Sevensma Essay Prize) が1967年に贈られた。⁶³

1970年から1979年まで

この10年間に、小分科会は病院図書館に関する研究機関を初めて組織し、これに出資した。また3つ目となる病院図書館の基準と、読書補助具の要覧、画期的な文献目録、そして病院図書館サービスに関する各国の見解を発表した。さらに、議事録に視覚障害者図書館に関する記述を盛り込み、その後このような図書館の認知度がIFLA内部で高まるよう尽力し、対象の拡大を反映するために名称を変更し、知的障害児に対する図書館サービスにも活動を拡大した。

この種の機関としては初めての例と考えられる病院図書館国際研究所 (International Institute in Hospital Librarianship) は、図書館学校 (School of Librarianship) と北ロンドンポリテクニク (Polytechnic of North London) の共同出資により設立された。ロ

ンドンで開催された1週間にわたるプログラムには、3大陸から参加者が集まった。⁶⁴

『病院図書館の基準 (Standards for hospital libraries)』⁶⁵は1973年に発表され、入院患者だけでなく、高齢者、家から外出できない人々、そして身体障害者と知的障害者に対する図書館サービスに関する勧告が盛り込まれた。⁶⁶ 基準そのものの価値以外にも、それは小分科会の新たな使命を反映し、語っている点で重要であった。

待望の『読書補助具国際要覧 (International Directory of Technical Reading Aids)』は、その後まもなく完成した。障害者向けに製作された読書補助具に関するアンケートからまとめられたこの要覧には、さまざまな製品の最新情報が掲載された。⁶⁷

小分科会による注釈が付いた文献目録、『病院・福祉図書館サービス：国際文献目録 (Hospital and welfare library services: an international bibliography)』は、1977年によろやく出版された。収録された2,164文献は、1863年から1972年までに出版されたもので、「あらゆるタイプの病院の患者、家から外出できない人、高齢者、身体障害者（視覚障害者、聴覚障害者など）と、知的障害者…に対し、病院内、地域内を問わず提供される図書館サービスの局面」を紹介していた。⁶⁸

編集された『各国の見解 (National Statements)』は、数ヶ国における、入院患者やその他の介護施設入所者、障害者に対する図書館サービスの状況を反映していた。小分科会委員長によって編集されたこの資料は、1974年から1976年までを対象とし、各国の人口、病床率、関連法、図書館サービス団体および蔵書などの情報を掲載していた。⁶⁹

1970年代に議会図書館 (Library of Congress) の視覚障害者・身体障害者部 (Division for the Blind and Physically Handicapped) (アメリカ合衆国) が小分科会に対し、IFLA内に「視覚障害者図書館の国際的な基盤」を設立するよう支援を求めた際、視覚障害者ユーザーのニーズへの関心は、さらに明確な形となった。最初の反応として、小分科会はそのような「基盤」に対する支援が有望かどうかを決定するために、国際調査を実施した。それが有望であるという結果を得て、1977年のIFLA年次大会 (ブリュッセル) で、視覚障害者図書館会議を開催し、その後専門理事会 (Professional Board) に対し、そのようなユーザーのための作業部会を設立すべきであるという勧告を提出した。⁷⁰ 理事会はこれを承認し、新たに結成された視覚障害者作業部会⁷¹はラウンドテーブルとなり、その後、視覚障害者図書館分科会 (Libraries for the Blind) となった。⁷² 2008年にその名称は、「印刷物を読めない障害がある人々のための図書館サービス分科会 (Libraries Serving Persons with Print Disabilities)」に変更された。

1976年、IFLAは新規約を採択したが、その際に部会（Division）と分科会（Section）が設立された。その後、病院図書館小分科会は、新たに創設された、「一般市民にサービスを提供する図書館部会（Division of Libraries Serving the General Public）」に所属する分科会となった。同時にそれは、「入院患者および障害のある読者に対する図書館サービス分科会（Section on Library Services to Hospital Patients and Handicapped Readers）」という新たな名称を得た。⁷³新名称は、分科会の活動をより具体的に反映するだけでなく、生物および医学図書館分科会（Biological and Medical Sciences Libraries Section）の設立とともに、この分科会が病院内での専門的な医学図書館サービスを対象とするか否かに関する混乱を終結させることになるものと期待された。分科会の新たな使命は、以下の通りであった。

- － 病院やその類似施設の職員、患者および住人に対する、一般的な図書館サービスに関する問題の検討
- － 通常の公共図書館サービスを利用できない、家から外出できない人や障害のある読者に対する図書館サービスに関する問題の検討⁷⁴

最後になるが、小分科会は、障害のあるユーザーをさらに支援するために、ユネスコ公共図書館宣言（UNESCO's Public Library Manifesto）改訂版に盛り込むべく、障害のある読者に対する図書館サービスに関する声明を作成した。⁷⁵また、児童図書館分科会（Children's Section）との合同会議を開催し、知的障害の基準を拡大し、そのような診断を受けた児童に適した図書のリストを掲載した出版物を共同制作することで合意を得た。⁷⁶これは1984年に出版され、IFLA初の専門報告書となった。

1980年から1989年まで

1980年代には、それまであまり重視されていなかった、図書館利用において不利な立場にある人々（具体的には、受刑者、聴覚障害者および読みやすい出版物を必要としている人々）への図書館サービスに対する国際的な関心が明らかになったことを受けて、分科会は再び規約の見直しを行った。最初の改正案は1981年に出されたが、それは受刑者に対する図書館サービスに関する提案であった。⁷⁷専門理事会は、対象を追加する必要があることに同意したが、関心の拡大を反映するために、分科会は名称を変更しなければならないと考えた。名称は変更され、「図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス分科会（LSDP）」という新しい名前が選ばれた。⁷⁸新規約は次のようになった。

- － 地域社会で他の人々が利用できる図書館サービスを利用することができない人々（例入院患者や刑務所入所者）に対するサービスの促進

- － 利用可能な図書館サービスの利用が難しい人々（例 家から外出できない人々、センターを利用している高齢者や老人ホームで暮らしている高齢者）に対するサービスの促進
- － 地域で暮らしている障害者（例 知的障害者、聴覚障害者を含む身体障害者）に対する図書館サービスの促進
- － 病院内の図書館の改善と、この分野における専門技術の促進
- － 障害者の読書に関する問題を討議する会議の開催⁷⁹

刑務所図書館について、分科会では、利害関係をまとめたり、評価したりする作業部会の設立を投票により決定した。設立後すぐに作業部会は、1985年のIFLA年次大会でオープンセッションを開催し、⁸⁰その翌年には大会前に合同事前セミナーを開催して、作業部会が実施した調査の結果を配布した。⁸¹驚くべき行動力をもって、作業部会は次に1988年のシドニーにおける会議で公開会議を開催し、半日のワークショップと刑務所図書館のスタディツアーを実施した。翌年には、大会に先立ち刑務所図書館サービスに関する事前セミナーを開催し、設立からわずか5年後の1990年には、『受刑者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for Library Services to Prisoners)』の最終原稿を作成した。また、「子供の人格を育てよ、そうすれば成人後更生させる必要はない」と謳った刑務所図書館の運営に関するワークショップを共同開催し、各国の事例を取り上げた。⁸²1980年代末には、作業部会の絶え間ない努力の結果、受刑者に対する図書館サービスは、分科会において発展の可能性を秘めた中心的な活動となり、この分野専門の国際ガイドラインがその後まもなく出版されることになった。

聴覚障害者に対する図書館サービスの提供に向けた組織的な取り組みは、1980年代初期のIFLA年次大会で定着していった。当時分科会は、聴覚障害者が「おそらくこれまで図書館司書によって無視されてきた、障害のある読者の大集団である」ことに同意していた。その後、分科会ではこの問題に取り組む作業部会を設立し、作業部会の設立後すぐに1983年のIFLA大会で公開会議が開催された。翌年分科会は、情報誌『聴覚障害者ニューズレター (Deaf Newsletter)』⁸³を発行し、その後すぐに研修マニュアルの原稿を作成、コメントを得るために回覧した。さらに、「閉ざされた耳のために扉を開く」と題された会議を開催した。1988年3月にニューサウスウェールズ州立図書館で開催されたこの会議には、145名の参加者が集まった。そして同年IFLA年次大会にて、世界ろう連盟 (World Federation of the Deaf) に対し諮問資格を与える決議の草案を作成することを、分科会全体の投票により決定した。⁸⁴最後に、非常に歴史の浅いこの作業部会の重要な成果として、『聴覚障害者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to deaf people)』の作成があげられる。このガイドラインはその後承認され、発行された。

1980年代後半に、分科会では、読みやすい図書の利用者のニーズに専心する作業部会を設立した。分科会委員長は、次のように述べた。

…読みやすい図書の出版の促進は何よりも重要である。言葉を習得する前に聴覚障害者となった人は、読みやすい図書を必要としている。知的障害者や失語症、ディスレクシアの人、病気や薬の服用、疲労、あるいは高齢が原因で集中困難に苦しんでいる人、新たに到着した移民、半文盲の人など、その他の多くの障害者や不利な立場にある人々も同様である。⁸⁶

作業部会は設立後間もなく、「読みやすい図書（ER）」の出版に関する情報交換のためのセミナーを開催した。⁸⁷また、IFLA年次大会で最初の会合を開き、その目的を正式に文書にまとめた。その後間もなく、国際セミナー（オランダ、ティルブルフ）を開催し、そこで「読みやすい」資料の製作と配布のさまざまな局面に関する論文が発表された。⁸⁸この活動すべてが、「読みやすい図書」資料のためのガイドラインの作成へとつながり、ガイドラインは1990年代に発行された。

分科会は、支援対象である、図書館利用において不利な立場にある利用者の範囲を拡大すること以外にも、2つの重要な活動を成し遂げ、これらについてIFLAでは、専門報告書シリーズの第1号および第2号として発行した。第1号は『知的障害者のための図書：選択の手引き（Books for the mentally handicapped: A guide to selection）』で、児童図書館分科会（Section of Children's Libraries）と共同で制作された。第2号は、分科会の主導のもと、作業部会によって作成された、『入院患者および地域の障害者にサービスを提供する図書館ガイドライン（Guidelines for libraries serving hospital patients and disabled people in the community）』である。⁸⁹作業部会は分科会が従来作成していた基準ではなく、ガイドラインを開発することを選択した。なぜなら、この分科会特有の柔軟性により、さらに多くの状況のもとで一層役立つガイドラインにすることができると判断したからである。理想としては、ガイドラインが先進国と開発途上国の両方に対し、地域の状況に合わせて調整できる手段を提供することが期待された。⁹⁰LSNもこのやり方を継承している。

最後に、分科会は、入院患者および障害者に対する図書館サービスに関する2回目の国際研修を、今回はストックホルムで開催した。北欧の図書館協会および図書館センターの後援を受け、15ヶ国から40名が1週間のプログラムに参加したが、その中には「第三世界」諸国から参加した4名の図書館司書も含まれていた。⁹¹

1990年から1999年まで

この時代も引き続き分科会にとって実りの多い時期であった。主として重要であったのは、先の 10 年間に設立された作業部会が、それぞれの専門分野におけるガイドラインを発行したことであった。

最初に発行されたのは、『聴覚障害者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to deaf people)』⁹²であった。ガイドラインの必要性は、分科会の「聴覚障害者のニーズを確認するための作業部会 (Working Group to Identify the Needs of the Deaf)」が関心を示していたことであり、ガイドラインは、一般市民にサービスを提供する図書館部会のガイドライン準備プロジェクトとの連携により作成された。このプロジェクトは、IFLAの1988年中期プログラムの一部であった。ガイドラインの見直しと追加情報は、世界ろう連盟などいくつかの聴覚障害者団体から寄せられた。同連盟は、ガイドラインの見直しと情報提供に続き、これを承認した。⁹³

次は、『受刑者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to prisoners)』⁹⁴で、1991年に発行された。刑務所図書館に関する国のガイドラインを開発中の国のための手引きとして策定された同ガイドラインには、人事および職員の配置、蔵書、施設、設備、資金調達と予算、そしてサービスに関する勧告が盛り込まれた。1995年に発行された第2版⁹⁵には、サービスのレベル、蔵書の規模、職員の配置、資金調達、評価とマーケティングの方法に関する、さらに具体的な情報が盛り込まれた。

最後に、『読みやすい図書のためのIFLA指針 (Guidelines for easy-to-read materials)』⁹⁶が1997年に発行された。このガイドラインは、1) 読みやすい作品の特性とその必要性を解説し、対象となるユーザーグループを特定すること、そして2) 読みやすい図書の出版社や、読むことに障害がある人々のために活動している団体・機関に対し、示唆を与えることを目的としていた。そして、編集の方法、デザイン、レイアウト、出版の手順、およびマーケティングに関する情報など、さまざまなテーマを網羅していた。

この時代のその他の活動として、分科会は高齢者に対する図書館サービスの作業部会を設立した。⁹⁷また、一般市民にサービスを提供する図書館部会の調整理事会に対し、多数の提案を提出したが、その中に、識字に関するコアプログラム確立の勧告があった。⁹⁸専門理事会はプログラムの導入に同意したが、⁹⁹最終的には執行理事会が、財政的・組織的理由によりこれを拒否した。その代わりに、この問題を研究し、これに関わる勧告を行う作業部会が設立された。¹⁰⁰そしてついには、読みに関する正式な分科会が設立されるに至った。2007年、作業部会は「識字・読書分科会 (Literacy and Reading Section)」となった。

最後に、分科会は調整理事会に、図書館利用において不利な立場にある人々にサービスを提供している図書館のための、国際的なリソースブックの作成を提案した。2年間のプロジェクトとして計画されたこのモノグラフには、分科会の歴史、大会論文目録、不利な立場にある人々に関する最新の主題書誌（カミングによる1977年の文献目録を発展させた内容）が掲載されることになった。これは2001年に、『図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス国際リソースブック（International Resource Book for Libraries Serving Disadvantaged Persons）』¹⁰¹として発行された。第2版は2009年に発行される予定である。

2000年から2009年まで

この時代、分科会は戦略計画に修正を加え、IFLAはこれを「完璧なモデル」と称した。¹⁰² 計画の中では、不利な立場にある人々に対する図書館情報サービスの世界的な状況の調査研究を継続することを提唱していたが、分科会が追求する有意義な活動はすべてこの分野の正しい理解にかかっていたので、これは重要な焦点であった。計画ではさらに、可能な限り世界中から幅広く会員を募集し続ける方法も確認した。そして第3の目標は、ガイドライン作成の継続で、これは特別なニーズのある人々の図書館と図書館サービスへの平等なアクセスを促進する重要な手段である。最後に、計画では、ヨーロッパディスレクシア協会（European Dyslexia Association）や世界ろう連盟などの図書館専門家以外のパートナー組織を引き続き確認していくことを目的としていた。¹⁰³

この時代、分科会はまた、設立70周年（2001年ボストン）と75周年（2006年ソウル）をそれぞれ祝福した。75周年記念の際には、分科会情報冊子のテキストと画像が、その活動を一層反映するために手直しされた。

この10年の間に、IFLAは2001年から2005年までの分科会の活動を見直すことを命じ、2005年11月に提出されたLSNによるレビューでは、過去、現在および未来の目標、方針、そして活動に重点が置かれた。¹⁰⁴ またこの時代には、常任委員会が長期間にわたり分科会の名称変更について議論したが、これはひとつには、分科会のユーザーグループに関する国際用語に発展が見られたことにより必要に迫られたといえる。最終的に名称は、2008年末に「特別なニーズのある人々に対する図書館サービス分科会（Library Services to People with Special Needs Section）」へ変更された。

最後に、この時代、5つの新たな実践ガイドラインと、図書館利用において不利な立場にある人々にサービスを提供する図書館のためのリソースブック、そしてアクセシビリティ

チェックリストが発行された。ガイドラインとチェックリストは IFLA の公式言語に翻訳されたが、一部は日本語、クロアチア語、ペルシア語、ノルウェー語、ブラジルポルトガル語、デンマーク語、フィンランド語、スウェーデン語、イタリア語、韓国語、スロヴェニア語にも翻訳された。

最初に発行されたのは、『入院患者、長期介護施設内の高齢者および障害者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to hospital patients and the elderly and disabled in long-term care institutions)』だった。¹⁰⁵このような図書館サービスが目指すレベルを示すことを目的とし、同ガイドラインは、地域の制約に関係なく、多くの状況において利用できる、柔軟性のある勧告として策定された。ガイドラインのための情報は 30 ヶ国以上から寄せられ、その見直しには 4 大陸の 5 ヶ国の代表が参加した。

次に発行されたのは、『聴覚障害者のための図書館サービスガイドライン』第 2 版であった。¹⁰⁶この大幅増補改訂版では、インターネットや WWW などの、聴覚障害者に重大な影響を与える通信の進歩を考慮に入れていた。ガイドラインは、勧告以外にも、聴覚障害者コミュニティ独自の図書館情報に関わるニーズを、図書館司書に伝えることを目的としていた。第 3 版は 2009 年に発行予定である。

これに続いて『ディスレクシアのための図書館サービスのガイドライン (Guidelines for library services to persons with dyslexia)』¹⁰⁷が発行された。世界人口のおよそ 8% に影響を与えている、無症状の学習障害¹⁰⁸であるディスレクシアは、1990 年代に 2 度、年次大会プログラムで取り上げられてきた。同ガイドラインは見直しのために、原稿段階でスカンジナビア諸国に配布され、ヨーロッパディスレクシア協会および国際ディスレクシア協会 (International Dyslexia Association) に対してもコメントが求められた。

『受刑者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to prisoners)』¹⁰⁹は、2005 年に受刑者に対する図書館サービスの企画、実施および評価の手引きとして発行された。またこれには、この分野の独自のガイドラインの作成を希望している国でモデルとして役立つという意図もあった。さらにこれは、受刑者は、読み、学び、そして情報にアクセスする基本的権利を有するという考えを強化するステートメントとして役立つことになっていた。同ガイドラインは、図書館司書、図書館経営者、刑務所当局、政府出先機関、その他の刑務所図書館運営担当・資金調達担当機関/当局のために作成された。

最後に、『認知症の人のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for library services to persons with dementia)』¹¹⁰が 2007 年に発行された。このガイドラインの

内容は広範囲にわたり、認知症の背景、その原因と種類、そして在宅か施設在住かを問わず、認知症に苦しむ人へのサービスの課題を紹介している。また、認知症の人のための資料とサービスに言及し、サービスのモデル、読書指導員、民俗的・文化的マイノリティグループの問題も取り上げている。

『図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス国際リソースブック (International resource book for libraries serving disadvantaged persons)』¹¹¹は 2001 年に K.G. ソール社 (K.G.Saur) シリーズとして発行された。これは分科会のユーザーグループに対する図書館サービスに関する画期的な文献目録を更新したもので、分科会の設立と 2000 年までの発展についても詳細に記されている。

『障害者のための図書館へのアクセスチェックリストの紹介 (Access to libraries for persons with disabilities - CHECKLIST)』¹¹²は 2005 年に発行され、障害者のための図書館、図書資料、サービスおよびメディアフォーマットへの物理的なアクセスに関する提言を行った。さらに、特別なニーズのある人々に必要なサービスを提供し、効果的にコミュニケーションをとるための、図書館職員の研修方法も提案した。

LSN のユーザーグループに関連のある『用語集 (A Glossary of Terms)』は、2009 年に発行される予定である。おもに国際的な情報源と、LSN が支援しているグループに関する LSN 独自の実用的な知識をもとに、250 を超える項目が集められた。用語集は、LSN の会員だけでなく、他の IFLA 分科会、そして LSN の活動に関心を持つ国際社会の人々にも役に立つと期待されている。

2009 年にはまた、『読みやすい図書のための IFLA 指針第 3 版』の発行も予定されている。この第 3 版のガイドラインでは、幅広いニーズが取り上げられることになっており、認知障害者、言語スキルが限られている人を含む識字レベルが低い人々、そして認知障害はないにもかかわらず、読むことに問題を抱えている人々も含まれる。

最後に、2009 年には、『図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス国際リソースブック』の第 2 版が発行される予定である。このモノグラフには、特別なニーズのある人々に対する図書館サービスに関する最新の文献目録と、2000 年から 2008 年までの分科会の功績が新たに掲載される。

現在および将来

LSN は、入院患者に対する図書館サービスに取り組む小委員会から、多種多様な特別な

ニーズを持つグループに対する図書館システム、リソースおよびサービスの改善を促進するために尽力する分科会へと発展してきた。LSN は現在、特別なニーズのある人々が、あらゆる形態の図書館資料を利用できるように改善する活動と、そのようなニーズについて議論する国際会議の開催を引き続き行っている。

今後も LSN は、さまざまな目的の中でも特に、特別なニーズを抱える人々の問題を解決する著作権法の促進、世界ろう連盟およびヨーロッパディスレクシア協会などの、LSN と同様の分野を中心に活動している機関との共同事業の追求、特別なニーズのある人々のためのリソースとサービスの改善に向けた、他の IFLA 分科会との協力、この分野における調査研究の実施、そして関心分野における口頭および文章による発表を続けていくであろう。

¹ このときの出版物は、『知的障害者のための図書：選択の手引き (Books for the mentally handicapped: a guide to selection)』IFLA 専門報告書第 1 号 (児童図書館分科会と共同で作成)、『入院患者および地域の障害者にサービスを提供する図書館ガイドライン (Guidelines for libraries serving hospital patients and disabled people in the community)』IFLA 専門報告書第 2 号で、どちらも現在絶版である。

² Comité International des Bibliothèques, 4me Session Cheltenham, (Angleterre), 29-31 Août 1931, Actes. (1931) Genève: Albert Kundig, 18-19.

³ IFLA は 1927 年に国際図書館・書誌学委員会 (International Library and Bibliographical Committee) として設立された。1927 年 9 月 26 日 - 30 日エジンバラで開催された英国図書館協会 (British Library Association) 50 周年記念会議参考。

⁴ For formation and/or reports of the earlier permanent sub-committees, see: Actes du Comité International des Bibliothèques, Travaux Préparatoires Congrès de Prague, 1926, D'Atlantic City et Philadelphie, 1926, D'Édimbourg 1927, 1ere Session Rome, 31 Mars, 1928, 2e Session Rome-Florence-Venise, Juin 1929. (1931), op. cit., 44; Actes du Comité International des Bibliothèques, II. 3e session, Stockholm, 1930. (1930) Upsala: Almqvist & Wiksells, 16-19, Annexe IV, 43-50; Comité International...1931, op. cit., 13-19.

For membership of the sub-committees – which were, hospital libraries, popular (public) libraries, exchange of librarians, exchange of university theses, professional education, library statistics, and statistics on printed matter – see: Actes du Comité International Des Bibliothèques 6me Session Chicago, 14 octobre Avignon, 13-14 novembre 1933. (1934) La Haye: Martinus Nijhoff, 9-11.

⁵ この時代の入院患者に対する図書館サービスへの関心の高まりを総合的に解説した単体の出版資料はないが、カミング (Cumming) による国際的な文献目録中の引用、特に 1908 年から 1931 年までを熟読することで、その兆候を感じることができる。

⁶ 入院中の者を含め、軍人に読み物を提供する国家プログラムは、第 1 次世界大戦中および戦後に開始された。その直接的な利益以外に、プログラムは、本と読書が病人に対し癒

し効果をもたらす可能性があることを広範囲にわたって示す、予想外の価値を備えていた。
中でも広く知られていた2つのプログラムは、イギリスの戦争図書館（War Library）とアメリカ合衆国の戦争サービスプログラム（War Service Program）であった。

⁷ For an overview of early attempts at international cooperation in librarianship, see: Rudomino, M.I., *The Prehistory of IFLA*. In Koops, W.R.H. and Wieder, J. eds. (1977) *IFLA's First Fifty Years: Achievements and challenge in international librarianship*. München: Verlag Dokumentation, 66-79.

⁸ 同図書館は、イギリスの戦争図書館が発展したもので、戦後はイギリス国内の入院患者に読み物を提供する主要な機関となった。

⁹ Jones, E.K. (1939) *Hospital Libraries*. Chicago: American Library Association, 141.

¹⁰ ロバーツは主任幹事として、会議の詳細を管理する責任を負うこととなる。

¹¹ Library Association (1931) *Proceedings of the Fifty-Third Annual Conference of the Library Association...September 22nd-27th, 1930*. Supplement to the *Libr Assoc Rec*, 33(Third Series, vol. i, no. 1): *IX- X*. See also: *Hospital Libraries: Cambridge Conference (1930) The Lancet (Oct. 4): 777-8*.

¹² Jones, E. K, *op cit.*, 141-3.

¹³ Roberts, M. E. (1932) *Libraries for Hospital Patients the World Over*. *Hosp Manag* 34(August): 35.

¹⁴ IFLAの執行部門である国際図書館委員会（International Library Committee）は、1952年にIFLA評議会（Council）として再編された。

¹⁵ *Actes...1931, op. cit.*, 18-19, *Annexe VI*, 44.

¹⁶ Lemaître, H. (1936) *Bibliothèques d'Hôpitaux*. *The Book Trolley*, 1, 6(July): 62

¹⁷ See, for example: Milam, C. H. (1921) *What a hospital library service may accomplish*. *The Nation's Health*, III,11(Nov): 627-29

¹⁸ 例えば IFLAの1930年の会議で、ミーラムは「図書館司書…そして彼らの同僚たち」が、国際会議における特定の問題の議論を通じて抱くようになった要望に気づいたが、その1つが「病院内の公共図書館分館」であった。

¹⁹ *Actes...1931, op. cit.*, 18-19.

²⁰ Jones, P. (1932) *International Hospital Group*. *ALA Bull* 26(August): 451.

²¹ *Actes du Comité International des Bibliothèques IV, 5me session, Berne, 1932*.

(1932) La Haye: Martinus Nijhoff, *Annexe V*, 66-68

^{2 2} *Ibid*, 27-28.

^{2 3} *Actes...1932, op. cit.*, 27.

^{2 4} Lemaître, H., *op.cit.*, 62.

^{2 5} *Actes,,,1933, op. cit., Annexe XX*, 155-156.

^{2 6} Lemaître, H., *op. cit.*, 62-63

^{2 7} The Guild of Hospital Librarians. (1935) *The Book Trolley* 1, 3(October): 32.

^{2 8} Sturt, R. History of hospital libraries. In Going, M E., ed. (1963) *Hospital libraries and work with the disabled*. London: The Library Association, 27.

^{2 9} See, for example, sub-committee reports in: Actes du Comité International des Bibliothèques 9me Session Varsovie 31 mai – 2 juin 1936 (1936) La Haye: Martinus Nijhoff, Annexe III, 69-72; Actes du Comité International des Bibliothèques 10me Session Paris 24-25 août 1937 (1938) La Haye: Martinus Nijhoff; Annexe II, 54-58; Actes du Comité International des Bibliothèques 12me Session La Haye – Amsterdam 10 – 12 juillet 1939 (1940). La Haye: Martinus Nijhoff, Annexe XI, 91-93.

^{3 0} *Actes...1937, op. cit.*, 33.

^{3 1} Roberts, M.E. (1937) The fifth international hospital congress, Paris, July, 1937. In *The Book Trolley* 1, 11(October): 231, 233.

^{3 2} *Actes...1936, op. cit.*, 69.

^{3 3} Koops, W.R.H. and Wieder, J. eds. (1977), *op. cit.*, 23.

^{3 4} Henri Lemaître. (1947) *The Book Trolley* 5, 8(January): 189.

^{3 5} Guild of Hospital Librarians. (1947) *The Book Trolley*, 5, 10(July): 217.

^{3 6} *Actes du Comité International des Bibliothèques, 13me Session, Oslo, 20-22 mai, 1947.* (1947) La Haye: Martinus Nijhoff, 37; *Annexe XXIX*, 159-164.

^{3 7} *Actes du Comité International des Bibliothèques, 14 me Session, Londres, 20-23 Septembre, 1948.* (1949) La Haye: Martinus Nijhoff, 33-39.

^{3 8} *Actes du Conseil de la FIAB, 21e Session Bruxelles, 10 septembre et 16 septembre, 1955.* (1956) La Haye: Martinus Nijhoff, 36.

^{3 9} *Actes...1948, op. cit.*, 37; *Annexe XVI*, 111, 128-129.

^{4 0} Cumming, E.E. (1977) *Hospital and welfare library services: an international bibliography*. London: The Library Association, 1

^{4 1} Coops, W.E.S. (Milisa), (1977). The evolution of professional activities and their interplay with IFLA's structure. In Kroops, W. R. H. and Wieder, J., *op. cit.*, 57.

^{4 2} Actes du Comité International des Bibliothèques 18me Session Copenhague 25-27 septembre 1952. (1953) La Haye: Martinus Nijhoff, 42

^{4 3} Actes du Conseil de la FIAB, 24e Session, Madrid, 13-16 octobre, 1958. (1959) La Haye: Martinus Nijhoff, 40.

^{4 4} *Actes du Conseil de la FIAB 20me Session Zagreb 27 septembre – 1er octobre 1954* (1955). La Haye: Martinus Nijhoff, 64.

^{4 5} Actes du Conseil de la FIAB, 19me Session, Vienne, 10–13 juin, 1953. (1953) La Haye: Martinus Nijhoff, 46

^{4 6} Actes du Conseil de la FIAB, 22e Session, Munich, 3-4 septembre 1956. (1957) La Haye: Martinus Nijhoff, 28.

^{4 7} Actes du Conseil de la FIAB, 23e Session, Paris, 23-26 septembre 1957. (1958) La Haye: Martinus Nijhoff, 45; *Actes...1958*, *op. cit.*, 40.

^{4 8} Actes du Conseil de la FIAB, 25e Session, Varsovie, 14-17 septembre 1959. (1960) La Haye: Martinus Nijhoff, 27.

^{4 9} Mémoire indicateur sur les bibliothèques d'hôpitaux. (1960) *Libri*, 10: 141-146.

^{5 0} Actes du Conseil. Proceedings of the Council, 29e Session, Sofia, 1963 Septembre 1-6. (1964) La Haye: Martinus Nijhoff, 71-2.

^{5 1} *Actes du Conseil Général. Proceedings of the General Council 31e Session Helsinki 1965 August 15-21 août.* (1966) La Haye: Martinus Nijhoff, 106-107.

^{5 2} International Federation of Library Associations, Libraries in Hospitals Sub-section. (1969) IFLA Standards for Libraries in Hospitals (general service), UNESCO Bull. Libr., 23(2) March/April: 70-76

^{5 3} Actes du Conseil de la FIAB, 27e Session, Edimbourg, 4-7 septembre 1961. (1962) La Haye: Martinus Nijhoff, 34.

^{5 4} Actes du Conseil de la FIAB, 28e Session, Berne, 27-31 1962. (1963) La Haye: Martinus Nijhoff, 58.

^{5 5} Actes du Conseil Proceedings of the Council 30e Session Rome 1964 September 13 – 18 septembre. (1965) La Haye: Martinus Nijhoff, 56-61.

^{5 6} Actes du Conseil Général / Proceedings of the General Council 32e La Haye / The Hague, 1966, September 11-17. (1967) La Haye: Martinus Nijhoff, 74.

^{5 7} Lewis, M. J. (1971) The Libraries in Hospital's Sub-section of the International Federation of Library Associations. In *Libraries for Health and Welfare: Papers Given*

to the Hospital Libraries and Handicapped Readers Group Conference in 1968 and 1969. London: The Library Association, 51.

^{5 8} Reading Round the World: A Set of International Reading Lists Compiled by Members of the International Federation of Library Associations. (1969) London: Clive Bingley.

^{5 9} International Federation of Library Associations IFLA Annual 1969. (1970) München: Verlag Dokumentation, 63.

^{6 0} Lewis M,J. (1971) op. cit., 52.

^{6 1} Actes du Conseil Général. Proceedings of the General Council. 34e Session, Frankfurt-am-Main 1968 August 18-24. (1969) La Haye: Martinus Nijhof, 80.

^{6 2} Clarke, J, M, (1978) Section on library services to hospital patients and handicapped readers. IFLA Journal 4(3): 253.

^{6 3} Lewis, M.J. (1973) The international scene. In Hospital libraries and work with the disabled, 2d. ed. London: The Library Association, 261,

^{6 4} International Federation of Library Associations, IFLA Annual 1971. (1972) München: Verlag Dokumentation, 69.

^{6 5} この基準は公共図書館分科会の『公共図書館の基準 (Standards for public libraries)』の一部として発表された。(1973年)

^{6 6} Clarke, J. M. The international scene. In Going, M.E. comp. and ed., (1981) Hospital Libraries and Work with the Disabled in the Community. London: The Library Association, 290.

^{6 7} Clarke, J. M. (1978), op. cit., 254.

^{6 8} Cumming, E.E., op. cit., 1.

^{6 9} Malmgren-Neale, G. IFLA's Section for Libraries Serving Disadvantaged Persons, A Presentation, 6 June 1989, 3 (LSN Archives.)

^{7 0} Clarke, J. M. (1978), op. cit., 252.

^{7 1} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annual 1978. (1979) München: Verlag Dokumentation Saur, 123.

^{7 2} Malmgren-Neale, G., op. cit., 4

^{7 3} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annual 1977. (1978) München: Verlag Dokumentation Saur, 103-105.

^{7 4} Clarke, J. M., (1978), op. cit., 252.

^{7 5} International Federation of Library Associations. IFLA Annual 1972. (1973) München: Verlag Dokumentation, 79. The statement appeared in: UNESCO Public Library Manifesto. (1972) UNESCO Bulletin for Libraries, 26(3): May-Jun

^{7 6} Locke, J. and Panella, N. (2001) International resource book for libraries serving disadvantaged persons. München: K.G. Saur Verlag, 24.

^{7 7} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annual 1981. (1982) München: Verlag Dokumentation Saur, 181.

^{7 8} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annual 1984. (1985) München: Verlag Dokumentation Saur, 120.

^{7 9} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annual 1986. (1987) München: Verlag Dokumentation Saur, 134.

^{8 0} Ibid., 135.

^{8 1} Dalton, P. Prison Library Services: Brief Facts and Issues: An International View 1986/1987. (LSN archives)

^{8 2} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annuals: 1988 (1989), 1989 (1990), 1990 (1991) München: Verlag Dokumentation Saur: 162; 133; 133-135.

^{8 3} International Federation of Library Associations and Institutions. IFLA Annuals: 1981 (1982), 1982 (1983), 1983 (1984), 1984 (1985) München: Verlag Dokumentation Saur: 181; 164; 186; 120

^{8 4} IFLA Annual 1988, op. cit., 115.

^{8 5} Day, J. M., ed. (1991) Guidelines for library services to deaf people. IFLA Professional Reports No. 24. The Hague: International Federation of Library Associations.

^{8 6} Malmgren-Neale, G., op. cit., 4.

^{8 7} International Federation of Library Associations and Institutions. Section for Libraries Serving Disadvantaged Persons. Newsletter, no. 30, May, 1990: 3. (LSN archives)

^{8 8} Section of Libraries Serving Disadvantaged Persons, Annual Report 1986/1987. (LSN archives).

^{8 9} IFLA Annual 1984, op. cit., 119.

^{9 0} Clarke, J. M. (1984) Guidelines for libraries serving hospital patients and disabled people in the community. IFLA Professional Reports No. 2. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions, 1-2.

^{9 1} Malmgren-Neale, G., op. cit., 3.

^{9 2} Day, J.M. ed., op. cit.

^{9 3} Ibid, 6-7.

^{9 4} Kaiser, F., ed. (1992) Guidelines for library services to prisoners. IFLA Professional Reports No. 34. The Hague: International Federation of Library Associations.

^{9 5} Kaiser, F., ed. (1995) Guidelines for library services to prisoners, 2d ed. IFLA Profession Reports No. 46. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

^{9 6} ブローール・トロンバック 読みやすい図書のためのIFLA指針 No. 54.
The Hague:IFLA
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/easy/ifla.html> (日本語訳)

^{9 7} IFLA Section for Libraries Serving Disadvantaged Persons. Minutes of the Standing Committee meetings held on Thursday, April 11, 1991...and Friday, April 12. (LSN archives)

^{9 8} International Federation of Library Associations and Institutions. Section for Libraries Serving Disadvantaged Persons. Newsletter, no. 38, Spring, 1994, 8. (LSN archives)

^{9 9} International Federation of Library Associations and Institutions. Section for Libraries Serving Disadvantaged Persons. Newsletter, no. 40, Spring, 1995. (LSN archives)

^{1 0 0} Cole, John Y. Literacy, libraries & IFLA: recent developments and a look at the future. Paper presented at the 66th IFLA Council and General Conference, Jerusalem, Israel, 13-18 August (2000). www.ifla.org/IV/ifla66/papers/021-139e.htm (accessed 25 April 2009).

^{1 0 1} Locke, J. and Panella, N, op. cit.

^{1 0 2} Minutes, LSDP Standing Committee Meeting, Buenos Aires, Saturday, 28 August.. (LSN archives)

^{1 0 3} Libraries Serving Disadvantaged Persons Section, Strategic Plan, 2004-2005. (LSN archives)

^{1 0 4} IFLA Libraries Serving Disadvantaged Persons Section, Section Review, November 15, 2005. (LSN archives)

^{1 0 5} Panella, N. M. (2000) Guidelines for libraries serving hospital patients and the elderly and disabled in long-term care facilities. IFLA Professional Reports No. 61. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

^{1 0 6} Day, J. M. (2000) Guidelines for library services to deaf people. IFLA Professional Reports No. 62. The Hague: International Federation of Library Associations and

Institutions.

¹⁰⁷ Nielsen, G. S. and Irvall, B. (2001) Guidelines for library services to persons with dyslexia. IFLA Professional Reports No. 70. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

¹⁰⁸ European Dyslexia Association. Incidence and emotional effects.
<http://www.dyslexia.eu.com/strengths.html> (accessed 13 March 2009.)

¹⁰⁹ Lehmann, V. and Locke, J. (2005) Guidelines for library services to prisoners. IFLA Professional Reports No. 92. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

¹¹⁰ Mortensen, H. A. and Nielsen, G.S. (2007) Guidelines for library services to persons with dementia. IFLA Professional Reports No.104. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

¹¹¹ Locke, J. and Panella, N., *op. cit.*

¹¹² Irvall, B. and Nielsen, G.S. (2005) Access to libraries for persons with disabilities – CHECKLIST. IFLA Professional Reports No. 89. The Hague: International Federation of Library Associations and Institutions.

ナンシー・パネラ (Nancy Panella) について

ナンシー・パネラ博士は、ニューヨーク市聖ルカ・ルーズベルト病院ボリング記念医学図書館 (Bolling Memorial Medical Library, St. Luke's-Roosevelt Hospital Center) 館長で、聖ルカ・ルーズベルト病院に保存されている記録と歴史的収集物の管理にもあたっているが、これらはいずれも博士の在職中に整理・収集されたものである。このような活動を認められ、博士は 2006 年に聖ルカ・ルーズベルト大統領記念賞 (St. Luke's-Roosevelt President's Award for Excellence) と医学同窓会生涯功労賞 (Medical Alumni Society's Lifetime Achievement award) を受賞した。パネラ博士は、ワシントン D.C. のアメリカ・カトリック大学で図書館サービス学の修士号を、ニューヨーク市のコロンビア大学で同博士号を取得し、1995 年に IFLA の会員となり、現在にいたっている。また博士は、アメリカ医学図書館協会 (MLA)、MLA 国際協力セクション、MLA ニューヨーク・ニュージャージー支部、専門図書館協会 (Special Libraries Association)、ニューヨーク図書館クラブ (New York Library Club)、ニューヨーク科学アカデミー (New York Academy of Sciences)、さらにニューヨークを拠点とした専門家協会、Archons of Colophon の会員でもある。

パネラ博士は、特別なニーズのある人々に対する図書館サービス分科会 (LSN) の常任委員を務めており、『入院患者、長期介護施設内の高齢者および障害者のための図書館サービスガイドライン (Guidelines for libraries serving hospital patients and the elderly and disabled in long-term care facilities)』(IFLA 専門報告書第 61 号) の編集チームを指揮した。また、博士は LSN の『図書館利用において不利な立場にある人々へのサービス国際リソースブック (International Resource Book for Libraries Serving Disadvantaged Persons)』(IFLA 出版物シリーズ 96) の共著者でもある。ごく最近では、LSN の特別なニーズのあるユーザーグループに関する用語集を完成させたが、これは 2009 年に発行された。